

青い空と青い海

沖縄県立那覇高等学校三年 島袋 葵

暑い
苦しい
喉が渴いた
もうだめだ
どうして僕が
どうして私が
こうして消えた多くの命
消えてはならなかった尊い命

私たちが生まれるずっと前の
八月二十二日の夜
攻撃を受けた船は
暗い海の底へ沈んだ
対馬丸
千二百名を乗せた船は
静かに真つ黒の海の上を進んでいた
”ドッカーン”
大きな音と船内に迫る水
何かを掴もうともがく腕
「たすけてー」
「あんまー」
叫びながら海水に飲まれる子
持ち主のいない帽子や靴

わずか十分足らず
大きな大きな船体は
静かな波と共に消えた

これは嘘でも作り話でもない
ここ沖縄で本当にあった話
私たちは知らない
忘れていいの？
知らなくていいの？
ただの昔話なの？
いいや、ちがう
忘れられない
忘れてはいけない
忘れられてはいけない
七十八年前の沖縄

私と同じ十七の命が
私より小さな命が
いくつ消えてしまったのだろう
ただ生きたかっただけ
大好きな家族に会いたかっただけ
安全なところへ逃げると言われただけ

その命が帰ってくることはなかった
もう二度と顔を見ることはできなかった

もう二度と返事をしてくれることはなかった
二度と見上げることでできなかった沖縄の青い空
二度と触れなかった青い海

私たちの目の前に広がる広い海のどこかで
対馬丸は沈んだ

忘れないために
私たちは考える
もうあんな世界を作ることがないように
誰もが大切な人と生涯過ごせるように
繰り返さない方法を

暁空丸に乗った私のおばあ
対馬丸と共に港を出た船だった
あの時対馬丸に乗っていたら
きっと私にはいない

おじいがいるから私がいる
おばあがいるから私がいる
戦争を語る私のおばあ
もうすぐ九十三になる私のおばあ
忘れないために
私たちは話を聞く

どうか二度と赤い海が作られないように
どうか二度と黒い空が作られないように
私たちは考える
私たちは聞く
私たちは伝える
沖繩に生まれた子供として

おじいとおばあが生きた百年
悲惨な過去から
創ってくれた今がある
私が生きる百年
創ってくれた平和と
守るべき沖縄がある
そしてもう
繰り返してはいけないと誓う

いつまでも平和であるように
青い空と青い海が
いつまでも私たちを迎えてくれるように
私たちも平和に尽くす
太陽に照らされた沖縄のために